

Archive for 8 月 2023

環境破壊の環境省広告

今朝の新聞の全面広告にビックリ仰天！「デコ活でくらしのエコがけ」とは、いったい全体どういうことだ。また成金企業が下品なお騒がせ広告をぶちかましているのかな、と。が、よく見ると文面は下図のようになっていた。



■朝日新聞 2023/08/30

広告主は環境省デコ活応援隊。その応援隊が、森林を減らし CO2 を増やすにほかならない新聞紙の1面全部を使って、豪華総天然色印刷で、「CO2 を減らす環境にやさしいアクション」としての「デコ活」を呼びかけていたのだ。まるで、マンガ！

が、それにもまして、「デコ活」で「エコろがけ」とは、言語的に、あまりにもヒドイ！ 自然環境以前に、これは日本の文化環境の破壊と断ぜざるをえない。それを環境省が呼びかけている。貧すれば鈍する。文化的にも、日本はもうダメだな。

【参照】

- * [「使える英語」とカタカナ英語: リスキリングのリスク](#)
- * [安倍首相の国連演説とカタカナ英語の綾](#)
- * [愛国者必読: 施光恒『英語化は愚民化』](#)
- * [書評: 水村美苗『日本語が亡びるとき』](#)



谷川昌幸(C)

2023/08/30 at 14:34

カテゴリー: [社会](#), [自然](#), [行政](#), [言語](#), [文化](#)

Tagged with [カタカナ](#), [環境](#), [外来語](#), [日本語](#)

高地展望台の愚

高地・高山への展望台建設競争が、ネパリタイムズで痛烈に批判されている。記事の要旨は、私なりに補足しつつまとめると、以下の通り――

ネパールにおける高地・高山での展望台・展望塔建設競争は、連邦制発足による地方自治体の権限強化とともに激しくなった。

自治体有力者たちは、地元の山上に展望台や展望塔をつくれば、人気が出て観光客が増えると期待した。

それを利用したのが、PK・ダハル(CPN-MC), KP・オリ(CPN-UML)などの中央政界有力者たち。地方の要望にこたえる形で展望台建設に予算をつけ、起工式や除幕式に出て、人気取りにこれ務めてきた。

が、こうして続々建設されてきた展望台への人気がいつまでも続くはずはない。その結果、完成後であれば放置か他用途流用、未完成であれば中途での建設放棄となるものも出始めた。

展望台建設競争は、本来なら福祉、教育、インフラ建設などに向けられるはずの予算を浪費するばかりか、それ自体で十二分に美しい自然や文化景観を、人為的に破壊することにもなっている。

それでも、地方と中央の有力者権益とも絡み、いままってなお展望台建設への動きは終息しそうにない。

* サリタ・ダハル「[近視眼的展望台建設狂走:政府はそれ自体として十二分に高い山の上に展望台をつくることに予算を浪費している](#)」, ネパリタイムズ, 2023/08/20

丘や山の上に人工的な展望台や展望塔をつくることは、[以前にも批判したように](#)、愚の骨頂。日本では、地方に行くと、見捨てられ無残な残骸を晒している展望台や展望塔を目にすることが少なくない。このままでは、ネパールも同じ轍を踏むことになるのではないだろうか。

【参照】

▼「[山に展望台、街に人造動植物:ネパールの景観破壊](#)」

▼Aria Parasai, [Nepal's shortsighted view-tower craze](#), Nepali Times, 03 April 2022



■展望台乱立(Google 検索)

谷川昌幸(C)

2023/08/27 at 14:39

カテゴリ: [ネパール](#), [社会](#), [自然](#), [文化](#), [旅行](#)

Tagged with [タワー](#), [観光](#), [展望台](#), [展望塔](#)

ネパール憲法 AI 探訪(4): 前文の特徴は？

憲法の「前文」は、一般に、その憲法の基本理念・原則を宣言したものである。理念・原則なので抽象的な文言が多いが、その国の憲法＝国家構成(=constitution)の基本構造の概観には便利だ。そこで、前回投稿との重複もかなりあるが、ここでは「前文」と限定し、AI 先生に尋ねてみた。

1. ネパール憲法のテキスト

ネパール憲法の正文はもちろんネパール語版だが、[英訳版も「法委員会\(Law Commission\)」自身が公告している](#)ので、ネパール語版に準ずるものとして使用してよいであろう。

また、日本語訳については、自動翻訳が便利だ。といっても、憲法前文は高尚にして難解な法文書。句点なしの複文・重文の超長文、美文・名文にして悪文……。読解し翻訳することが最も困難な文章の一つだ。これを自動翻訳ソフトはどう処理するか？

下記は、ネパール憲法前文の自動翻訳例。かなり怪しい部分もあるが、全体としてみると、よく頑張っている。自動翻訳ソフトは、文字通り日進月歩。いくつかの翻訳ソフトで翻訳したうえで比較校正すれば、実用上ほぼ問題ない程度には日本語訳することが出来る。興味深いことに、いくつかの自動翻訳文は、明らかに法学者・法実務家が参加してソフト開発したと思われる、いかにも「法文書」らしい日本語となっていた。隔世の感！

今回使用した AI は、Bing(日&英)、Bard(日&英)、ChatGPT(Ver3.5,英)、Perplexity(英)。これらの中で、もっとも適切に答えていると思われるのが、ChatGPT。Bard(英)も悪くはないが、以下では、ChatGPT 回答の要点を紹介する。

なお、参考のため、要約だが、日本語訳も追加掲載した。

2. ネパール憲法前文の特徴

ChatGPT によれば、ネパール憲法前文は、憲法全体を基礎づける基本的な諸原理・諸価値を宣言している。主要なものは以下の通り。

- ①国家の主権と独立
- ②包摂民主主義:ジェンダー、エスニシティ、宗教など属性にかかわらず全市民(国民)の参加を保障。
- ③市民的自由と基本的諸権利の保障。
- ④社会的な正義と平等:社会的格差の削減。
- ⑤多様性と多文化主義:ネパールの民族的・文化的・言語的な多様性を国家国民の強さの源泉として認め尊重。
- ⑥世俗国家:国家は特定の宗教を保護せず、全市民に宗教的自由を保障。
- ⑦ネパール人民のこれまでの闘いの成果の継承発展。
- ⑧法の支配。
- ⑨人権の保障。

⑩平和と繁栄。

⑪民主主義の諸価値の尊重:統治の透明性,責任の明確さ,政治への参加など。

一部,重複しているところもあるが,全体として,ネパール憲法前文の要点を要領よくまとめている。

なお,この種の問いについては,日本語よりも英語で質問した方が,はるかに適切な回答が得られる。英語版の方が,参照資料が圧倒的に多いからではないだろうか。生成 AI は,参照する言語文化圏の文化程度を反映するらしい。日本語文化圏の衰退? 恐ろしい。

3 「前文」日本語要約

ネパール憲法前文の特徴は, AI 先生によれば上記の通りだが,なんせ稀代の超名文にして超長文,かつ超難文にして超迷文の「前文」のこと,さすがの AI 先生も難儀したらしく,列挙された特徴も下掲全訳も少々紛らわしい。そこで,旧来の伝統的手法たる人力で「前文」全体を要約和訳しておく。

前文[要約]

われわれネパールの主権者たる人民[जनता]は,
自決権を有する人民として,ネパールの自由,主権,領土,国民的統一,独立および尊厳を堅持し,
ネパール人民が国家,民主主義および進歩のために闘ってきた崇高な歴史的な人民運動[जन आन्दोलन]をその尊い犠牲者たちへの深甚な敬意を表しつつ思い起こし,
封建的,専制的,中央集権的および単一国家的な統治制度がもたらすあらゆる差別や抑圧を除去し,
民族[जाती एस्‌निश्टी],言語,宗教,文化および地域特性の多様性を認めることにより多様性の下での統一を擁護促進し,また階級,カースト,地域,言語,宗教,性[लैंगि जेन्‌डर]およびあらゆる形の不可触性を理由とする差別を除去することによって経済的平等,繁栄および社会的正義を実現するため,比例的包摂参加原則に基づく平等な社会を建設することを決意し,および
競争多党制人民民主主義[जनताको लोकतन्त्र],市民的自由,基本的人権,定期的成人普通選挙,出版の自由,独立・不偏不党の有能な司法および法の支配をはじめとする民主主義の諸規範と諸価値に基づく社会主義[समाजवाद]を採ることを宣明し,
ここに,連邦民主制による持続的平和,良い統治,開発および繁栄を実現するため,制憲議会によりこの憲法を採択し公布する。

--- --- --- --- ---

参照:「前文」自動翻訳結果(修正・訂正なし)

[1]ネパール語⇒日本語(Google 翻訳)

序文

私たち,主権者であるネパール国民。

国民の主権,自治,自治権を吸収しながら,ネパールの独立,主権,地理的一体性,国家統一,独立,自尊心を無傷で維持する。

ネパール国民が国益,民主主義,進歩的变化のために繰り返し払ってきた歴史的な大衆運動,武装闘争,犠牲と犠牲の輝かしい歴史を記念し,殉教者と行方不明者や犠牲となった国民に敬意を表する。

封建的、専制的、中央集権的、統一的な国家制度によって生み出されたあらゆる形態の差別と抑圧を終わらせる。

多人種、多言語、多宗教、多文化、地理的に多様な特性を受け入れることにより、多様性の間の統一、社会文化的連帯、寛容と調和を保護し促進する。経済的平等、繁栄、社会正義を確保し、比例的包摂的かつ参加型の原理に基づく平等主義社会を構築するために、階級、民族、地域、言語、宗教、性差別、およびあらゆる形態の民族的アンタッチャビリティを終わらせることを決意する。

競争力のある複数政党制の民主的統治システム、市民的自由、基本的権利、人権、児童参政権、定期選挙、国民の完全な自由の概念を含む、民主主義的価値観と信念に基づく社会主義に取り組むことにより、豊かな国家を建設すること。報道機関、独立した公正かつ有能な司法機関、および法的国家の概念。

我々は、連邦民主共和制の統治システムを通じて持続可能な平和、良い統治、発展、繁栄という願望を実現するために、制憲議会を通過した後、この憲法を発行する。

[2]英語⇒日本語(みんなの翻訳)

前文:

我々、ネパールの主権者は、

ネパールの自由、主権、領土保全、国家の統一、独立及び尊厳を維持しつつ、国民の主権的権利並びに自治及び自治に対する権利を内部化する。

ネパールの人々が時に国家の利益、民主主義及び進歩的な変化のために行った歴史的な人々の運動、武力紛争、献身及び犠牲の輝かしい歴史を想起し、並びに殉教者、失踪者及び被害者である市民を尊重し

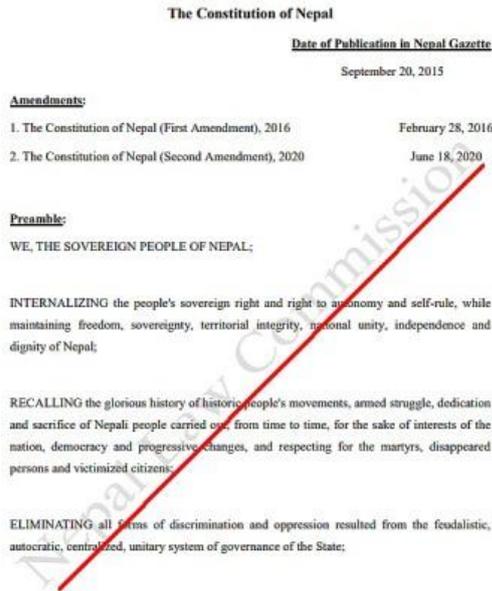
封建的、専制的、中央集権的、単一的な統治システムによって引き起こされたあらゆる形態の差別と抑圧を終わらせ

多民族、多言語、多宗教、多文化及び多様な地域的特性を認識し、経済的平等、繁栄及び社会的正義を確保するため、階級、カースト、地域、言語、宗教及びジェンダー並びにあらゆる形態の castebased の不可侵に基づく差別を撤廃することにより、比例的で包摂的かつ参加型の原則に基づく平等主義社会を構築することを決意し、社会的及び文化的連帯、寛容及び調和並びに多様な統一を保護し、促進すること。

国民の競争的な多党制の民主的統治制度、市民的自由、基本的権利、人権、成人の参政権、定期的な選挙、報道の完全な自由、独立した公平かつ有能な司法及び法の支配の概念を含む民主的な規範及び価値に基づく社会主義にコミットし、並びに豊かな国家を建設すること。

連邦、民主、共和の統治システムを通じて、持続可能な平和、良い統治、発展及び繁栄に対する願望を実現するために、ここに、憲法制定議会を通じて、この憲法を可決し、公布する。

--- --



谷川昌幸(C)

2023/08/13 at 13:24

カテゴリー: [ネパール](#), [情報 IT](#), [憲法](#)

Tagged with [AI](#), [翻訳](#), [前文](#), [法文書](#)

ポスターを見て、自戒新たに

終活「片付け」をしていたら、ネパールの古いポスターを見つけ、いまさらながら自戒を新たにした。

いまから 30 年ほど前、1990 年代の初め、カトマンズで一人の学生さんと知り合いになった。陽気で才気煥発、好奇心あふれる好青年だった。

しばらくして彼の部屋に遊びに行くことになった。ぶらぶら楽しくおしゃべりしながら歩いていくと、数十分で質素な住宅についた。その一室を彼は借りていたのだ。

部屋に招き入れられたとたん、目に飛び込んできたのが、壁に貼られていたこのポスター。「あっ、これは！」と、激しい衝撃を受け、しばらく言葉を口にすることが出来なかった。

学生さんの方は無邪気で、特に含むところがあるわけでないことは、すぐわかった。当時、学生運動が盛んで、デモやストや市街戦をしょっちゅうやっており、過激なポスターや落書きが街中にあふれていた。部屋の壁に貼られていたのも、そうしたアジ宣伝の一つであったに違いない。

事実、学生さんは、何の屈託もなく、チャイやお菓子を出し、楽しく歓談してくれた。

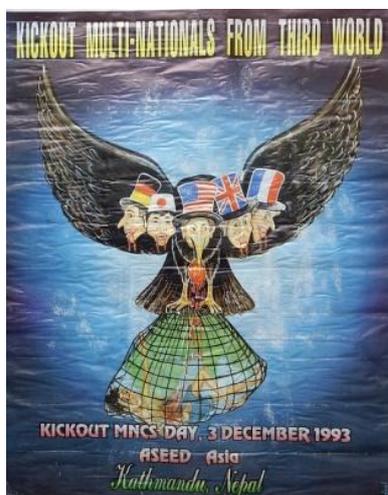
しかし、私の方は、そうはいかない。ネパールをはじめ途上国では、日本は、このポスターに描かれているような国と見られている。北の五大国の一つとして、日本も地球をわがものとし、途上国の人々を貪り喰っている。その日本の国民の一人が、そう、私自身なのだ。

これには心底まいった。そこで、学生さんに無理を承知でお願いし、何とかそのポスターを壁から外し、持ち帰らせていただいた。

このポスターのメッセージこそ、私がネパールで直に学んだ教訓の最たるものの一つであった。

むろん、その後、日本の国力はつるべ落とし、もはや1990年代初めの面影はあるまい。が、たとえそうであったとしても、日本はまだまだ「持てる国」の一つ。その特権的な立場を、このところ忘れがちであった。

そこに終活「片付け」で、このポスターが出てきた。やはり衝撃的。いまさらながら自戒の念を新たにされた次第。



* "ASEED"は、カトマンズに本拠を置く青年 NGO のようだが、詳細は不明。

谷川昌幸(C)

2023/08/07 at 17:03

カテゴリ: [ネパール](#), [社会](#), [経済](#), [国際協力](#), [文化](#), [旅行](#)

Tagged with [開発](#), [NGO](#), [南北問題](#), [学生運動](#), [搾取](#), [格差](#)

ネパール憲法 AI 探訪(3): 最大の特徴は？

ネパール憲法は、どのような特徴を持つ憲法か？ これについては、ネパール政府自身も列挙し説明しているが、例の如く長〜い。政府としては、取捨選択など出来ないということらしい(参照:[Main Features of the Constitution of Nepal, 2015](#))。ヤレヤレ。

これに対し、生成 AI は、いずれも簡潔に要約してくれている。さすがに機械、冷徹だ。

もっとも Bing 日本語版は、ネパール憲法制定過程について、「7年間にわたる『憲法不在』状態が続いた」と説明している(典拠不明)。が、そんなことはない。実際には、この間、詳細な「暫定憲法」がちゃんと適用されていたのであり、決して「無法状態」ではなかった。

1. 最大の特徴: 包摂民主主義の採択

この Bing 日本語版の説明を除けば、Bing 英語版、Bard、ChatGPT、Perplexity は、いずれもそつなく、ネパール憲法の特徴を列挙し簡潔に説明している。たとえば、Bard:

「ネパール憲法の最大の特徴は、連邦民主共和国を規定したこと。ネパールは 2008 年まで君主国だったので、これは歴史的な転換だ。また憲法は女性と少数派の諸権利を保障しており、この点で、この憲法は世界で最も進歩的な憲法の一つとなっている。」

ここで挙げられている2つの特徴のうち、「世界で最も進歩的」と評価されている後者については、さらにこう補足している。

「包摂代表: 女性、ダリット、ジャナジャーティ(エスニック諸集団)、マデシおよび他の少数派諸集団を包摂代表させること、これをこの憲法は重視している。」

たしかに、包摂民主主義(inclusive democracy)を世界に先駆けいち早く憲法の根本原則の一つとして採択したことは、私も、ネパール憲法の最大の特徴だと思う。

2. 他の諸特徴

これに対し、Bard が最初に挙げている連邦民主共和国の規定は、むろん長年君主国だったネパール

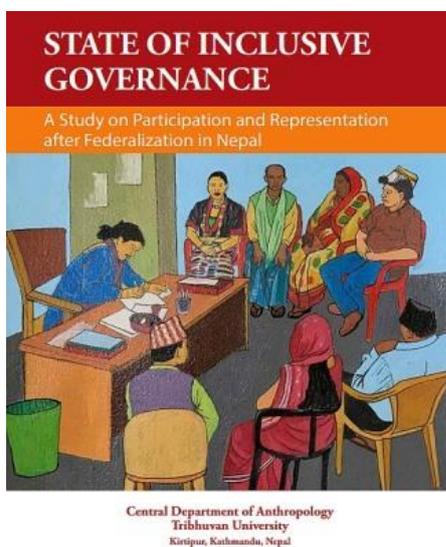
にとっては画期的だったとしても、世界的に見ると、同様の規定を持つ国は他にもたくさんあり、ネパール憲法に特に認められる特徴とまでは言えない。

このことは、生成AIがネパール憲法の特徴として挙げている以下の諸規定についても同様だ。人民主権／世俗制／議会制民主主義／複数政党制／象徴的元首としての大統領／首相を長とする議院内閣制／独立の司法／基本的人権の保障／教育と健康福祉の権利保障／環境保護／経済開発／地方自治

3. 包摂民主主義の可能性

ネパール憲法は、包摂民主主義を根本原則の一つとして制定された、先駆的な憲法だ。実験的とすら見てよいだろう。

世界どこでも、人びとの利害がますます多種多様化しつつあるのが現代。ネパール憲法への関心が、今後、高まっていくことは、まず間違いないであろう。



谷川昌幸(C)

2023/08/06 at 17:28

カテゴリ: [ネパール](#), [情報 IT](#), [憲法](#), [政治](#), [民族](#)

Tagged with [AI](#), [包摂民主主義](#)